

木崎中だより

11  
号

平成30年3月1日(木)  
さいたま市立木崎中学校  
048(886)4302

## 親のありがたさ

校長 大谷 慎也

3月となりました。桃の節句、啓蟄、春分とようやく本格的な春を五感で味わえる時季を迎えます。今週2日間にわたる学年末試験を終えた1・2年生は、大いに開放感に浸っています。一方、3年生は、有終の美を飾るべく全力で取り組んでいます。昨日の給食の献立は、「カツカレー」でした。「カツ⇒勝って」「カレー⇒(受)かれー！」の意味がこめられています。デザートに「アイスクリーム」も用意され、「アイスクリームが溶ける⇒問題がよく解ける」で締めくくりです。学校生活の中で楽しみの一つである給食で、少しでも応援できないかと栄養教諭がこのような献立を企画しました。

さて、3年生は、既に私立高等学校への進学等、卒業後の進路が内定した生徒もいますが、約70パーセントの生徒が、本日3月1日(木)に実施される「平成30年度埼玉県公立高等学校入学者選抜学力検査」に臨みます。また、一部の生徒は、明日2日(金)の面接や実技試験にもチャレンジします。埼玉県教育局から2月26日(月)に発表された平均志願倍率は、全日制が1.16倍(昨年度1.19倍)、定時制が0.54倍(昨年度0.55倍)となっています。募集生徒数が最も多い全日制普通科は、1.20倍(昨年度1.22倍)、専門学科は1.05倍(昨年度1.10倍)ですが、最も平均倍率が高い理数科は1.81倍(昨年度1.93倍)となっています。

中学校卒業後の進学に関する教育費は、各家庭でいろいろと考えるところがあることと思います。私事ではありますが、我が家でも節約や削減をしながら、教育費を捻出しています。現実的に私の小遣いの月額、数年来増額がありません。文部科学省では、2年毎に「子供の学習費調査」と称した抽出アンケート調査を行っています。平成28年度の結果や県公立高等学校および私立高等学校等の募集要項等を参考に、高等学校3年間でどのくらいのお金がかかるのかを試算してみました。公立高等学校の場合は約1,353,000円、私立高等学校は約3,300,500円です。授業料は、「高等学校等就学支援金制度」の導入により、各家庭で異なります。また、私立高等学校等は、入学金や授業料を含め、学校納付金等が各校で異なりますので、20万円以上の差があります。さらに、入学前の1校あたりの受検(験)料だけでも、埼玉県では、公立高等学校が2,200円、私立高等学校等が18,000～30,000円と違いがあります。そして、この他、学校によって異なる修学旅行費や学校納付金等の様々な費用が加わります。受検(験)から高等学校等卒業まで多額の教育費が必要であることを改めて実感させられます。

私自身は、中学校卒業後、公立高等学校に進学しました。2歳上の姉は、私立高等学校に自転車です約20分の通学。私は、電車を3つ乗り継いで1時間余りの通学。部活動でサッカーをやりながら、一日四食の生活です。私の両親は東北地方の中学卒業後、家族のために、自分のために働きました。結婚後、子育てするにあたっては、私が生後入退院を繰り返したり、小学校入学後も遠足に行けなかったりするほど、体が弱かったため、父は残業、母は内職が当たり前の生活を送っていました。その後、私は健康になり、体格もよくなった中学生の頃、父が「子どもが高等学校を卒業するまでは、親の責任だ。」と言っていたのをよく覚えています。中学校3年生の夏、普段風邪もひかない父が胆のう炎を患って入院し、手術をしました。その頃から「姉が私立学校に通学。両親は身を削って働いている。自転車通学できる公立学校に進学するべきである。」と考えるようになりました。結果的には、公立高等学校に進学しましたが、電車賃がかかり、食費のかさむ高校生活を両親によって支えられることとなりました。今となって、独りよがりの自分を知るとともに、両親への感謝の気持ちで胸がいっぱいになります。卒業にあたり、家族の苦労を理解し、感謝の気持ちを忘れないように3年生に伝えたいと思っています。

保護者の皆様、地域の皆様、本年度も木崎中学校の教育活動にご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。平成30年度も教職員一同、全力で教育指導にあたる所存であります。何卒よろしく願い申し上げます。